

首都圏本部

鉄道開業150年を祝して 新橋駅周辺でイベント開催

鉄道開業の起点となった新橋で、地域と連携し、鉄道の日を盛り上げるイベントを10月14～15日に開催しました。鉄道開業150年を記念した団体臨時列車の運行をはじめ、日本の鉄道発祥の地である旧新橋停車場を見学する街歩きツアーや、全国の駅弁・鉄道グッズの販売を行い、多くのお客さまにご利用いただきました。



横浜支社

横浜駅に乗り入れている鉄道6社局で 合同イベントを開催

鉄道開業150年を記念して、横浜駅に乗り入れている鉄道6社局で合同イベントを10月16日に開催しました。イベントでは、「鉄道開業150年 横浜駅6社局入場券・きっぷラリー（10月1～16日開催）」を達成された方へ6社局合同で作成した記念台紙をプレゼントしたほか、各社局が持ち寄り開催する催し物や、グッズ販売などを行いました。



八王子支社

国分寺保守基地でイベントを初開催

9月4日、国分寺保守基地で鉄道開業150年記念イベント「キヤE195系展示会 in 国分寺」を開催しました。三鷹エリアの組織横断プロジェクト「ちゅうおう「さんSUN」Creation」が、より多くの方に鉄道に興味を持っていただくために企画し、安全・安定輸送を支えるレール運搬車「キヤE195系」を間近で撮影するなど、お楽しみいただきました。



大宮支社

設備ユニット社員がCPサッカー世界大会に出場

鉄道事業部 設備ユニット設備総務センター（宇都宮分室）の久保善暉さんが、CPサッカー*日本代表のキャプテンに選出され、9月27日～10月3日にイタリアで開催された世界大会に出場しました。日々の業務と両立しながら、世界大会では5試合すべてに出場し、決勝トーナメント出場がかかった試合や3位決定戦などの重要な局面でゴールを決め、大いに存在感を発揮しました。
*CPサッカー：脳性まひ選手のために考案された7人制サッカー



高崎支社

SLによる「夜汽車鉄道百五十年号」を運行

10月14日、鉄道開業150年を記念した「夜汽車鉄道百五十年号」の上越線高崎～水上間の運行に合わせ、往路の高崎駅ではタレントや抽選で選ばれたお客さまなど総勢150人で「夜汽車鉄道百五十年号 150人の出発式！」を行いました。SLは水上駅転車台でのライトアップの後、点灯させた状態で復路を走行しました。



水戸支社

茨城プレデスティネーションキャンペーンを開催

10月1日から12月31日まで、茨城プレデスティネーションキャンペーンを開催。初日は、水戸駅南口でオープニングセレモニーを行ったほか、「いばらきサイクルトレイン」を上野駅から運行するなど開幕を盛り上げました。期間中は、「体験王国いばらき」をキャッチコピーに、「アウトドア・食・新たな旅のスタイル」をテーマとした数多くの企画を通じて、茨城の魅力を発信しました。



千葉支社

館山市と「地域振興に関する連携協定」を締結

8月25日、千葉支社では初となる「地域振興に関する連携協定」を館山市と締結しました。この協定は、相互に連携・協力し、双方の資源を有効に活用することによって地域振興を図ることを目的としています。今年度はホテルファミリーオ館山内にオフィス・ワークスペースの拠点を整備し、長期的な視野で移住・定住促進および関係人口拡大などに取組んでいきます。



長野支社

「北陸新幹線（高崎～長野間）開業25周年 記念出発式」を実施

10月1日、長野駅にて「北陸新幹線（高崎～長野間）開業25周年 記念出発式」を行いました。出発式では、松橋長野支社長、関長野副知事の挨拶の後、関係者によるくす玉開披にて開業25周年を祝うとともに、高橋長野駅長と荻原長野市長が出発合図を務めるなど、華々しいセレモニーとなりました。



東北本部

只見線の全線運転再開を記念し、「再会、只見線号」を運行

2011年7月の新潟・福島豪雨により甚大な被害を受けた只見線（会津川口～只見間）は、10月1日に全線で運転を再開しました。当日は、団体専用臨時列車「再会、只見線号」を運転。沿線の各駅や車内で、地元の皆さまによるおもてなしや、「列車に向けて手を振ろう」イベントなど、地域と一体となって盛り上げました。



盛岡支社

八戸運輸区で鉄道開業150周年記念イベントを開催

10月16日、八戸運輸区を会場に八戸臨海鉄道(株)と連携して、鉄道開業150周年記念イベントを開催しました。当日は「リゾートあすなろ」に乗車しながらの車両洗浄体験や、八戸臨海鉄道の貨物列車の車両撮影会などを行いました。乗務員のお仕事体験や車両基地の見学など、普段ではできない体験をお客さまにお楽しみいただきました。



秋田支社

大雨被害の奥羽本線 鷹ノ巣～大館間で運転を再開

8月の大雨の影響により線路設備に被害を受けた奥羽本線 鷹ノ巣～大館間では運転を見合わせていましたが、10月7日の始発列車から約2カ月ぶりに運転を再開しました。復旧したことで久しぶりに通勤・通学のお客さまが列車を利用する姿が見られ、秋田～青森間を走る特急「つがる」も全区間で運転を再開しました。



新潟支社

組織再編による新体制が発足

10月1日、7つの駅を統合した長岡営業統括センター、設備部の各主管課と各技術センターを統合した設備技術センターおよび設備指令室が発足し、10月3日に各箇所が発足式を行いました。今後一層、変革のスピードアップ実現や業務効率化、新たな価値創造の取組みなどを、「融合」のメリットを活かして推進していきます。



新幹線総合車両センターの操業非稼働実施

9月、新幹線総合車両センターでは業績回復と黒字必達に向けて可能な限りの経費削減策を進めるべく、検査計画の変更と9日間の全般・台車検査の操業非稼働、一時休業を実施しました。期間中は、社員の成長や能力向上を目的に教育訓練を設定し、42講座・延べ716名が受講。経費削減効果は、車両修繕費約3億8000万円と動力費など約820万円を見込んでいます。



鉄道開業150年記念イベントを開催

10月29日、鉄道開業150年を記念し、近隣の小学生などを対象にJR東日本研究開発センターで初の見学会を開催し、約350名の方が参加しました。お客さま案内ロボットの操縦やARゴーグルを使った体験、線路つき固め作業の見学など、一般公開していない試験装置の見学・体験をしていただきました。子どもたちからは、「楽しかった」という声を多く聞くことができました。



秋葉原の高架下でキャンプ練習場の実証実験

8月13～24日、事業化実現に向けた実証実験として、秋葉原の山手線高架下にキャンプ練習場を開設しました。初心者にはハードルの高いキャンプを都心の高架下で練習できる施設を設け、アウトドアスキルの成長をサポートする事業案を、ニューウェルプランズ・ジャパン合同会社コールマン事業部の協力を得て実施しました。



「新幹線×和柄」デザインのグッズを販売

鉄道開業150年と新幹線YEAR2022を記念して、多くの方々へ親しんでいただけるよう、これまでの鉄道グッズとは異なる和柄デザインのグッズを制作し、10月より販売を開始しました。はやぶさ柄は、E5系と沿線地域のモチーフである青森県のにんにく、宮城県の笹かま、岩手県の南部鉄器などがさりげなく描かれています。ぜひ、当社運営の鉄道グッズショップ「TRAINIART」でご覧ください。



WorldSkills Competition 2022 Special EditionでMedallion for Excellenceを受賞

2020年の「技能五輪全国大会」で金賞を受賞した近藤優樹さんが、2022年10月10～13日にドイツのニュルンベルクで開催された「WorldSkills Competition 2022 Special Edition (第46回技能五輪国際大会)」において、冷凍空調技術職種の世界代表選手として出場し、「Medallion for Excellence (敢闘賞)」を受賞。1997年以降同大会で敢闘賞以上を獲得したのは、JR東日本グループでは初めてとなります。



移動販売事業「よつばマルシェ」を開始

盛岡ターミナルビル(株)では、さらなるお客さまとの接点を構築するため、盛岡駅ビル「フェザン」の取り扱い商品をお届けする移動販売事業「よつばマルシェ」を11月2日から開始しました。生活様式に合わせた新たなマチナカへのアプローチとして、ショップが取り扱う生鮮食品や加工食品などを専用車両に積み込み、お客さまのもとへお届けします。当社スローガンである「地域を元気に、幸せに！」する活動を推進していきます。

